

境港 外港地区防波堤整備事業 事業再評価



平成17年 8月 29日
国土交通省 中国地方整備局

①. 境港位置図

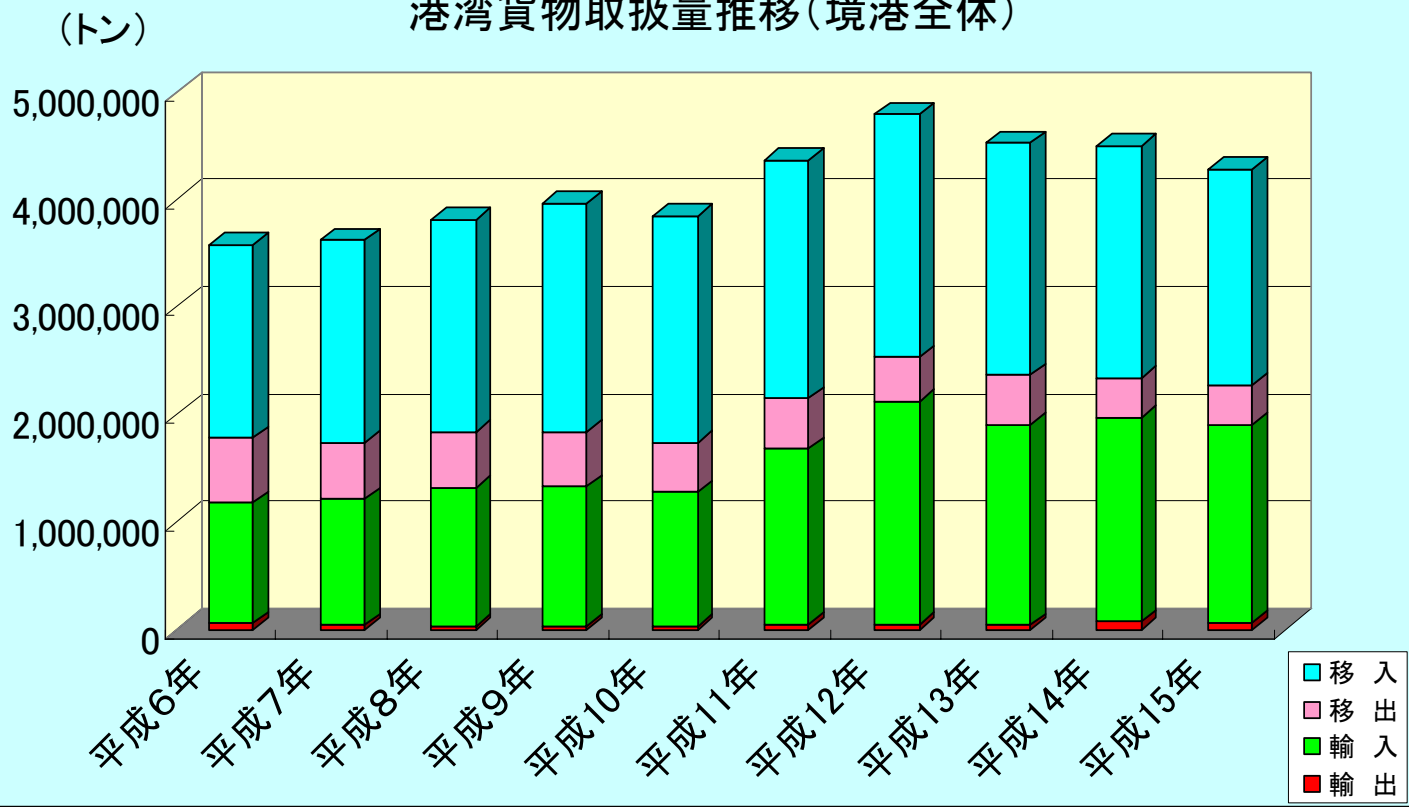


凡例

● 中国地方の主要港湾

②. 境港の利用状況

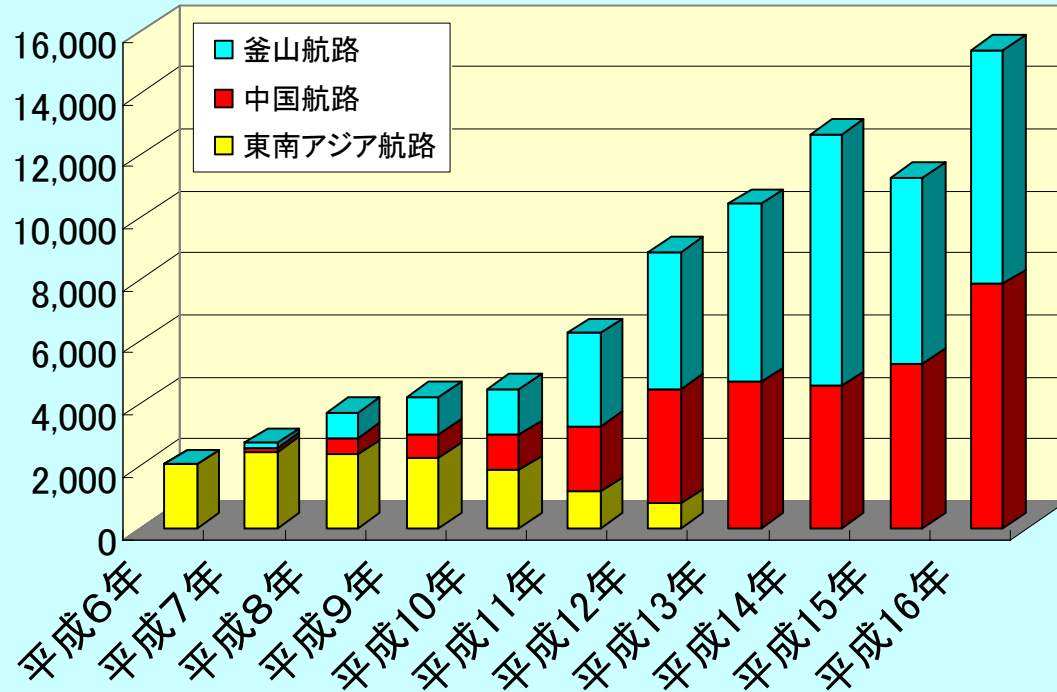
港湾貨物取扱量推移(境港全体)



	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年
輸出	57,021	40,229	33,649	31,160	32,851	43,436	51,408	41,109	68,919	62,725
輸入	1,118,399	1,170,982	1,286,614	1,299,945	1,244,931	1,633,438	2,075,258	1,868,619	1,905,881	1,843,091
計(外貨)	1,175,420	1,211,211	1,320,263	1,331,105	1,277,782	1,676,874	2,126,666	1,909,728	1,974,800	1,905,816
移出	605,907	529,579	521,779	503,265	463,819	472,587	407,585	457,294	368,916	364,239
移入	1,797,769	1,883,326	1,971,744	2,134,011	2,102,269	2,222,634	2,258,062	2,160,459	2,155,817	2,016,462
計(内貨)	2,403,676	2,412,905	2,493,523	2,637,276	2,566,088	2,695,221	2,665,647	2,617,753	2,524,733	2,380,701
合計	3,579,096	3,624,116	3,813,786	3,968,381	3,843,870	4,372,095	4,792,313	4,527,481	4,499,533	4,286,517
対前年比	—	101.3	105.2	104.1	96.9	113.7	109.6	94.5	99.4	95.3

コンテナ貨物取扱量推移

(TEU)



(単位: TEU)

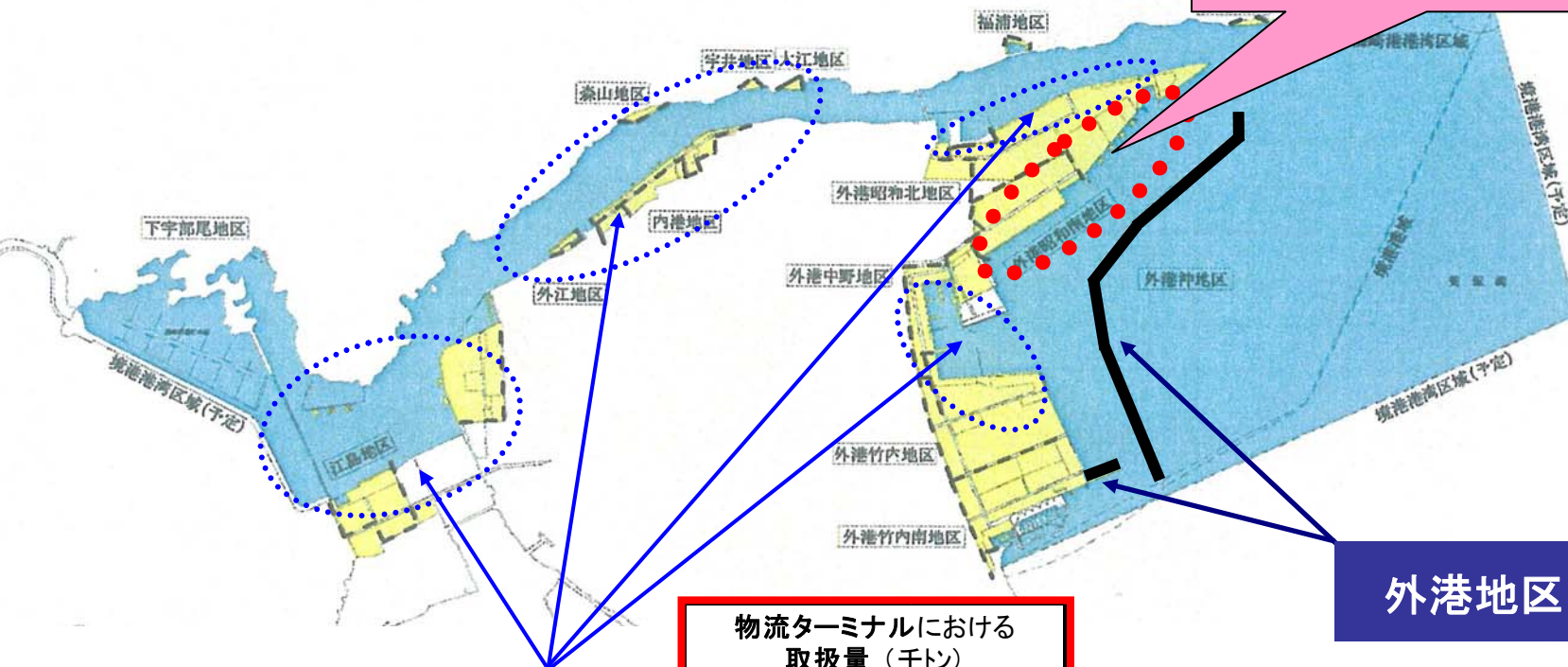
区分		平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
東南アジア航路	輸入	52	214	317	188	318	201	93	0	0	0	0
	輸出	1,987	2,247	2,043	2,093	1,538	955	683	0	0	0	0
	計	2,039	2,461	2,360	2,281	1,856	1,156	776	0	0	0	0
中国航路	輸入		101	487	712	1,102	2,097	3,641	4,474	4,268	4,852	7,102
	輸出		32	34	45	28	11	59	223	295	431	739
	計	0	133	521	757	1,130	2,108	3,700	4,697	4,563	5,283	7,841
釜山航路	輸入		122	704	985	1,194	1,675	1,966	2,664	3,174	2,884	4,000
	輸出		22	128	179	276	1,319	2,442	3,068	4,950	3,132	3,558
	計	0	144	832	1,164	1,470	2,994	4,408	5,732	8,124	6,016	7,558
合計	輸入	52	437	1,508	1,885	2,614	3,973	5,700	7,138	7,442	7,736	11,102
	輸出	1,987	2,301	2,205	2,317	1,842	2,285	3,184	3,291	5,245	3,563	4,297
	合計	2,039	2,738	3,713	4,202	4,456	6,258	8,884	10,429	12,687	11,299	15,399
対前年比(%)	—	134.3	135.6	113.2	106.0	140.4	142.0	117.4	121.7	89.1	136.3	

※TEU：20フィートコンテナ換算のコンテナ取扱個数の単位

(注) 平成16年のデータは速報値

港湾貨物の品目別取扱量（H15実績）

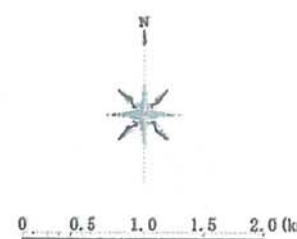
外港地区
多目的国際・国内物流ターミナル
(物流ターミナル)



外港地区防波堤

その他の施設における取扱貨物量 (千トン)	
原木	597
石材	40
非金属鉱物	12
鉄鋼	11
完成自動車	13
セメント	530
重油	247
化学薬品	29
その他	164
合計	1,642

物流ターミナルにおける取扱量 (千トン)	
原木	7
木材チップ	1,101
非金属鉱物	41
鉄鋼	18
電気機械	8
重油	293
石油製品	1,071
紙・パルプ	32
その他	74
合計	2,645
(うちコンテナ貨物)	100



境港全体 4,287 千トン

③. 境港の課題

港内の静穏性の向上

外港地区防波堤は、1年を通じて高波浪から「物流ターミナル」を防護し、もって利用船舶の荷役作業が安全かつ効率的に行われる上で重要な施設である。

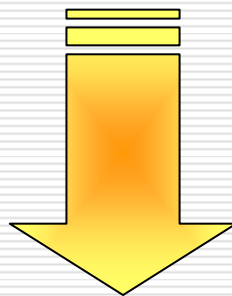
しかし、現状は、計画上必要な防波堤の長さには達していないため、港内へ侵入してくる波で船舶が大きく揺れるなどの障害が生じ、先行して整備した「物流ターミナル」のポテンシャルを十分に引き出せていない状況である。



コンテナ貨物取扱状況
〔 昭和南4号岸壁(-14m) 〕

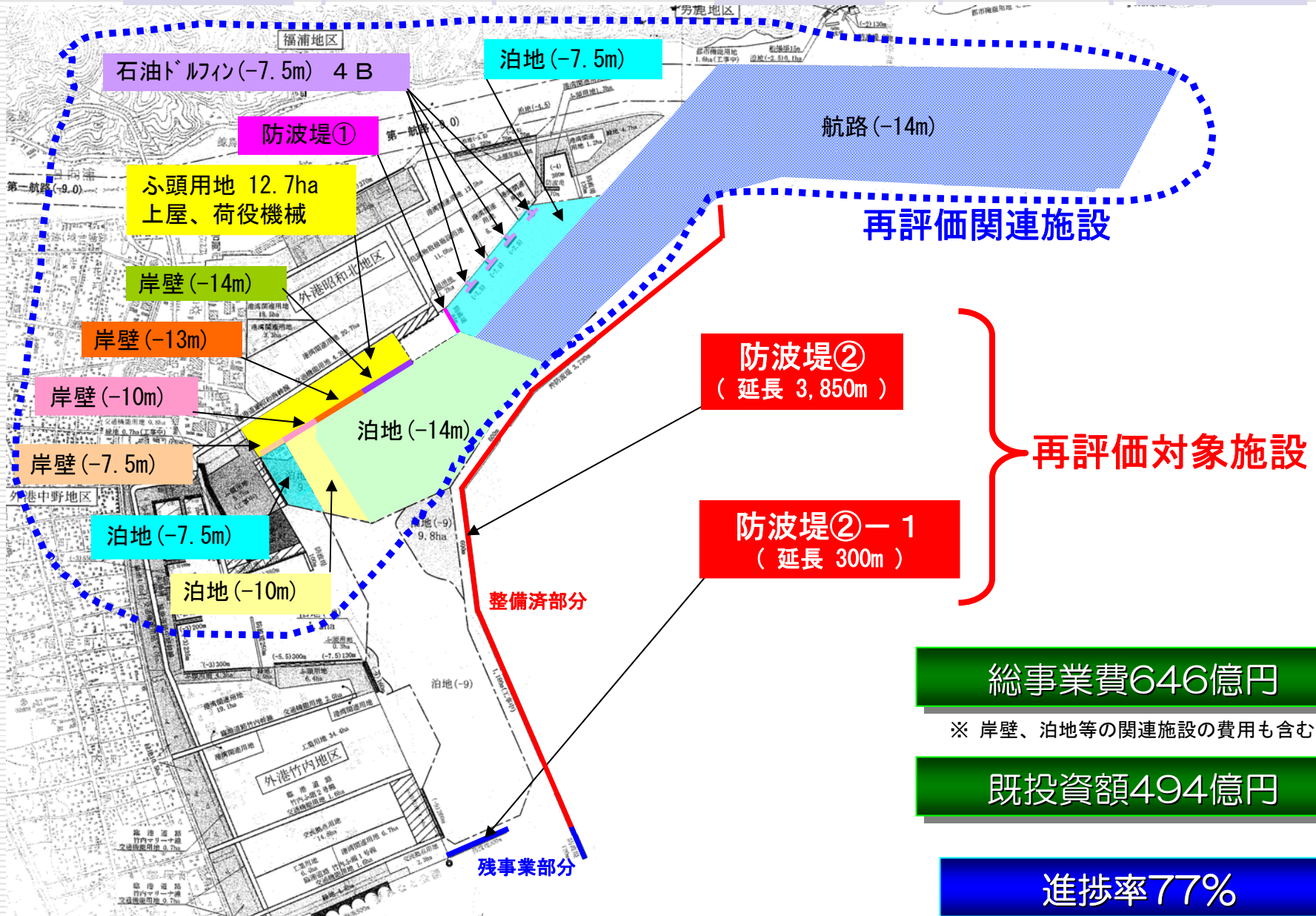
④. 事業の目的

「物流ターミナル」が安全、安心、
かつ安定に利用され、港湾貨物の
効率的な物流を図るためには…



外港地区防波堤の早期完成が必要不可欠！

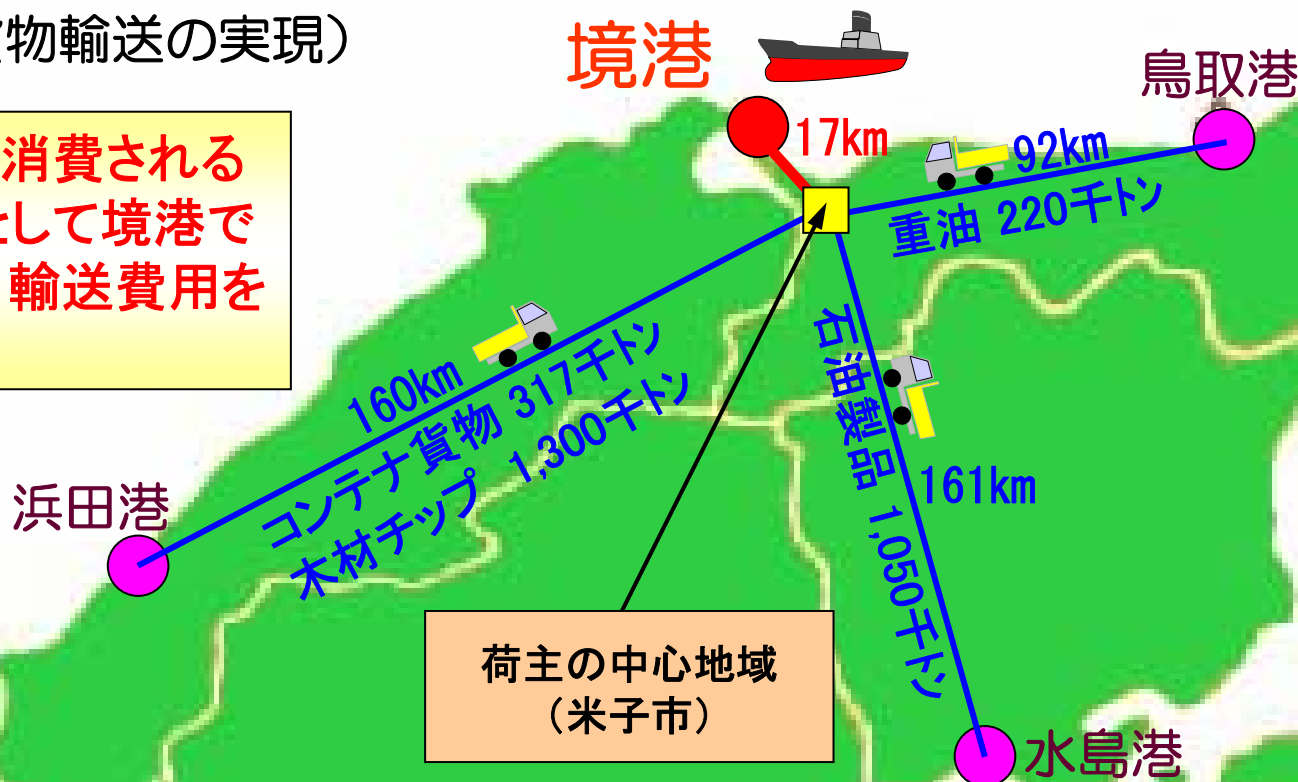
⑤. 対象事業の概要 ~構成施設一覧~



⑥. 整備効果

～ 他港からのシフトによる輸送費用の削減～
(効率的な貨物輸送の実現)

山陰地方で生産・消費される物資を、港湾貨物として境港で取り扱うことにより、輸送費用を削減する。



〔輸送費用削減便益〕 = 〔without時の輸送費用〕 - 〔with時の輸送費用〕

without時 : 代替港～荷主間の輸送ケース

with時 : 境港～荷主間の輸送ケース

凡例

● 代替港

～ 輸送費用削減便益 ～

～ 「コンテナ貨物」の輸送 ～

with → 境港を利用
without → 浜田港を利用

〔輸送費用削減便益〕
年間 11億円

～ 「木材チップ」の輸送 ～

with → 境港を利用
without → 浜田港を利用

〔輸送費用削減便益〕
年間 43億円

～ 「重油」の輸送 ～

with → 境港を利用
without → 鳥取港を利用

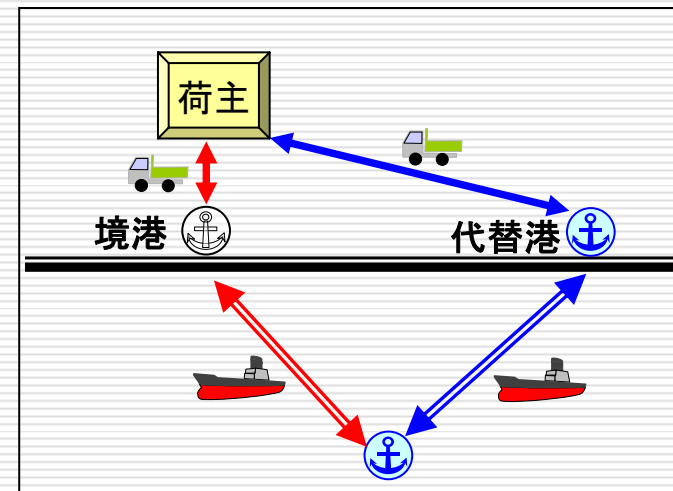
〔輸送費用削減便益〕
年間 4億円

～ 「石油製品」の輸送 ～

with → 境港を利用
without → 水島港を利用

〔輸送費用削減便益〕
年間 39億円

年間 97億円
の便益発生
(平成30年代前半)



⑦. 費用便益分析結果

	事業全体の 投資効率	残事業の 投資効率
総費用 (C)	1,466.5億円	102.6億円
総便益 (B)	3,103.6億円	255.7億円
費用便益比 (B/C)	2.1	2.5
純現在価値 (B-C)	1,637.1億円	153.1億円

～感度分析結果(B/C)～

	事業全体の投資効率			残事業の投資効率		
	需要量	事業費	事業期間	需要量	事業費	事業期間
-10%	2.0	2.1	2.1	2.2	2.8	2.6
+10%	2.2	2.1	2.1	2.7	2.3	2.4

⑧. その他の考えられる効果

・ 地域経済への貢献

貨物の輸送コスト削減に伴う地元企業の競争力を強化するとともに、雇用を確保できる。

・ 地球環境への負荷低減

貨物の陸上輸送距離を大幅短縮することにより、自動車排出ガスが低減する。(CO₂ 約 755.2トン/年 , NO_x 約 118.8トン/年)

また、モーダルシフトにより、大型車両の走行機会が減少することで、主要幹線道路等の維持修繕費とこれに伴う資源の節約ができる。

・ 諸リスクの回避

第一線防波堤(防波堤②)を整備することにより、津波襲来時における背後地浸水被害エリアを低減できる。

⑨. 今後の対応方針

事業継続

本事業は、投資効率性の高さが確認されたため、継続して実施することが妥当であると考えられる。

継続による効果

波浪の侵入を遮へいすることで「物流ターミナル」の静穏日数が年間27日増加し、平成30年代前半における貨物需要も約25万トン増加する。